

(様式第 10)

兵 医 法 第 177 号  
平成 26 年 10 月 4 日

厚 生 労 働 大 臣 殿

学校法人 兵庫医科大学  
理事長 新家 莊平 (印)

兵庫医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
氏 名	学校法人 兵庫医科大学 理事長 新家 莊平

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

兵庫医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号	電話(0798)45-6111
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 血液内科 5 内分泌・代謝内科 6 糖尿病内科 7 神経内科 8 肝臓・胆のう・膵臓内科 9 腎臓・人工透析内科 10 リウマチ科 11 アレルギー科 12 腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 乳腺・内分泌外科 5 小児外科 6 形成外科 7 美容外科 8 頭頸部外科 9 ペインクリニック・疼痛緩和外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。  
(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。  
(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 臨床検査科 3 病理診断科
------------------------------

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
44床	床	床	床	919床	963床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	593人	194人	625.0人	看 護 補 助 者	146人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	19人	10人	24.0人	理 学 療 法 士	29人	臨 床 検 査 技 師	103人
薬 剤 師	74人	2人	74.6人	作 業 療 法 士	12人	衛 生 検 査 技 師	1人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	10人	そ の 他	0人
助 産 師	38人	1人	38.6人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	945人	16人	954.5人	臨 床 工 学 技 師	19人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	9人
准 看 護 師	3人	0人	3人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	27人
歯 科 衛 生 士	5人	0人	5.0人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	254人
管 理 栄 養 士	10人	1人	10.4人	診 療 放 射 線 技 師	52人	そ の 他 の 職 員	42人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	13人	眼科専門医	14人
外科専門医	62人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	14人	救急科専門医	11人
		合 計	229人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	752.9人	8.6人	761.5人
1日当たり平均外来患者数	1724.3人	66.1人	1790.4人
1日当たり平均調剤数			1082.8剤
必要医師数			181人
必要歯科医師数			6人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			444人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	450.44 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (RC)	病床数	20床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 289.8m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台			病床数	22床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49.55m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	159.45m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備) 自動分析装置LABOSPECT008、 ディメンションRXL、Cobas8000			
細菌検査室	145.85m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備) Auto-Scan W/A、バクテアラート3D、 MGIT、Taqman			
病理検査室	155.92m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備) クリオスタット、連続迅速自動固定包埋装置			
病理解剖室	110.67m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備) 解剖台、サクラリサイクラー、エコプロセス			
研究室	12,911m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備) CO2インキュベーター、オートクレーブ、 オールインワン蛍光顕微鏡、 リアルタイムPCRシステム			
講義室	5,363m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (RC)	室数	11室	収容定員	1,261人
図書室	1,365m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (RC)	室数	1室	蔵書数	174,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	76.3%	逆紹介率	66.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数		22,390人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,603人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,111人
	D: 初診の患者の数		30,790人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡手術用支援機器を用いた腎悪性腫瘍手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 4cm以下の比較的小さな腎細胞がん(T1a)で腎部分切除(がんの部分だけを切り取り、腎臓を温存する手術)の対象となる患者に対して、da Vinci(ダ・ヴィンチ)サージカル システムを用いることでより低侵襲な手術を提供している。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	77人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	89人	・広範脊柱管狭窄症	76人
・重症筋無力症	137人	・原発性胆汁性肝硬変	38人
・全身性エリテマトーデス	360人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	5人	・特発性大腿骨頭壊死症	36人
・再生不良性貧血	57人	・混合性結合組織病	57人
・サルコイドーシス	50人	・原発性免疫不全症候群	7人
・筋萎縮性側索硬化症	22人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	259人	・網膜色素変性症	23人
・特発性血小板減少性紫斑病	94人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	39人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	1221人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	22人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	15人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	54人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	909人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	30人	・脊髄性筋委縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	167人	・球脊髄性筋委縮症	1人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	28人
・後縦靭帯骨化症	75人	・肥大型心筋症	7人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	21人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	13人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	4人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	65人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	27人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	103人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	退院調整加算
歯科外来診療環境体制加算	新生児特定集中治療室退院調整加算
歯科診療特別対応連携加算	救急搬送患者地域連携紹介加算
特定機能病院入院基本料	救急搬送患者地域連携受入加算
臨床研修病院入院診療加算	呼吸ケアチーム加算
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算
超急性期脳卒中加算	データ提出加算
妊産婦緊急搬送入院加算	救命救急入院料1
診療録管理体制加算	救命救急入院料4
急性期看護補助体制加算	特定集中治療室管理料1
看護補助加算2	総合周産期特定集中治療室管理料
無菌治療室管理加算1	新生児治療回復室入院医療管理料
無菌治療室管理加算2	小児入院医療管理料2
緩和ケア診療加算	
精神病棟入院時医学管理加算	
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
がん診療連携拠点病院加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
糖尿病合併症管理料	腫瘍脊椎骨全摘術
がん性疼痛緩和指導管理料	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術
がん患者カウンセリング料	脊髄刺激装置植込術 及び脊髄刺激装置交換術
外来緩和ケア管理料	網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)
移植後患者指導管理料 (臓器移植後)	人工内耳植込術
移植後患者指導管理料 (造血幹細胞移植後)	植込型骨導補聴器
糖尿病透析予防指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1
外来リハビリテーション診療料	乳がんセンチネルリンパ節加算2
外来放射線照射診療料	経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるものに限る。)
ニコチン依存症管理料	経皮的中隔心筋焼灼術
開放型病院共同指導料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
地域連携診療計画管理料	植込型心電図記録計移植術及び 植込型心電図記録計摘出術
がん治療連携計画策定料	両心室ペースメーカー移植術 及び両心室ペースメーカー交換術
がん治療連携管理料	植込型除細動器移植術及び 植込型除細動器交換術
認知症専門診断管理料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き 植込型除細動器交換術
肝炎インターフェロン治療計画料	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
薬剤管理指導料	補助人工心臓
医薬品安全性情報等管理体制加算	植込型補助人工心臓(拍動流型)
医療機器安全管理料1	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
歯科治療総合医療管理料	経皮的動脈遮断術
造血器腫瘍遺伝子検査	ダメージコントロール手術
H P V核酸検出	体外衝撃波胆石破砕術
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下肝切除術
遺伝カウンセリング加算	生体部分肝移植術

心臓カテーテル法による諸検査の 血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
植込型心電図検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
皮下連続式グルコース測定	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
長期継続頭蓋内脳波検査	同種死体腎移植術
神経学的検査	生体腎移植術
補聴器適合検査	膀胱水圧拡張術
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
小児食物アレルギー負荷検査	人工尿道括約筋植込・置換術
内服・点滴誘発試験	医科点数表第2章第10部手術の 通則5及び6に掲げる手術
センチネルリンパ節生検 (乳がんに係るものに限る。)	輸血管管理料 I
画像診断管理加算2	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・ コンピューター断層複合撮影	内視鏡手術用支援機器加算
CT撮影及びMRI撮影	歯周組織再生誘導手術
冠動脈C T撮影加算	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
外傷全身C T加算	麻酔管理料 ( I )
心臓M R I撮影加算	麻酔管理料 ( II )
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	放射線治療専任加算
外来化学療法加算 I	外来放射線治療加算
無菌製剤処理料	高エネルギー放射線治療
心大血管疾患リハビリテーション料 ( I )	強度変調放射線治療 ( IMRT )
脳血管疾患等リハビリテーション料 ( I )	画像誘導放射線治療 ( IGRT )
運動器リハビリテーション料 ( I )	体外照射呼吸性移動対策加算
呼吸器リハビリテーション料 ( I )	直線加速器による放射線治療
がん患者リハビリテーション料	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
認知療法・認知行動療法1	保険医療機関間の連携による病理診断
精神科作業療法	テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
医療保護入院等診療料	テレパソロジーによる術中迅速細胞診
透析液水質確保加算2	病理診断管理加算2
一酸化窒素吸入療法	クラウン・ブリッジ維持管理料
歯科技工加算	ヒト自家移植組織 ( 自家培養軟骨 )



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
細胞膜透過性ペプチドを用いたがん性疼痛治療薬の開発	廣瀬 宗孝	麻酔科	3,120,000	補委	日本学術振興会
脳卒中片麻痺上肢集中訓練CI療法の神経基盤研究(拡散テンソル画像による)	道免 和久	リハビリテーション部	2,210,000	補委	日本学術振興会
多様なレセプターチロシンキナーゼ遺伝子変異の消化管間質腫瘍の病態への影響	廣田 誠一	病院病理部	5,720,000	補委	日本学術振興会
外科手術後癒着形成分子機構に基づく新規包括的癒着制御法の開発と探索医療の模索	藤元 治朗	外科 肝・胆・膵外科	6,630,000	補委	日本学術振興会
Reg蛋白の消化管粘膜保護作用に関する研究	福井 広一	内科 消化器内科	780,000	補委	日本学術振興会
肺線維症などの難治性肺疾患に対する新規治療開発	田端 千春	内科 呼吸器・RCU科	1,430,000	補委	日本学術振興会
筋強直性ジストロフィー症における中枢神経スプライシング異常の分子機序の解明	木村 卓	内科 神経・脳卒中科	780,000	補委	日本学術振興会
肥満・動脈硬化における終末糖化産物受容体を介した炎症シグナルの意義	小山 英則	内科 内分泌・代謝科	1,690,000	補委	日本学術振興会
魚鱗癬様紅皮症の病態に関する研究	山西 清文	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
マルチモダリティを用いた免疫グリア細胞のイメージング研究	今泉 昌男	放射線医療センター 核医学・PET診療部	1,300,000	補委	日本学術振興会
上皮間葉系細胞分化転換関連分子を標的とする新しい胃がん腹膜転移治療法の開発	笹子 三津留	外科 上部消化管外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ケモカインCCL21と腫瘍溶解アデノウイルスを用いた新しい癌ワクチン療法の開発	山野 智基	外科 下部消化管外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
炎症を母地とする非定型消化器癌の発癌機構の解明と早期診断バイオマーカーの開発	松原 長秀	外科 下部消化管外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
スプライシング因子阻害剤とヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の併用効果の検討	富田 尚裕	外科 下部消化管外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
Plakin Family蛋白発現制御による肝内胆管癌治療戦略	宇山 直樹	外科 肝・胆・膵外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫における抗IL-6受容体抗体療法の開発	松本 成司	呼吸器外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
WT1免疫療法における脳局所の抑制系・促進系免疫機序の解明と抑制克服法の開発	泉本 修一	脳神経外科	1,170,000	補委	日本学術振興会

小計

17

甲状腺眼症の病態解明と新規治療法の確立	三村 治	眼科	650,000	補委	日本学術振興会
オントロジ技術を用いた内視鏡診断学習システムの開発	宮本 正喜	情報センター	390,000	補委	日本学術振興会
Srcファミリーキナーゼの悪性腫瘍進展での役割の解析と治療への応用	藤盛 好啓	輸血部	1,690,000	補委	日本学術振興会
大動脈瘤の病理組織学的病態解明と新規治療の開発	羽尾 裕之	病院病理部	1,560,000	補委	日本学術振興会
日本人悪性中皮腫に高頻度で見出された3p領域欠損の機能解析と診断への応用	玉置 知子	臨床遺伝部	2,080,000	補委	日本学術振興会
心腎貧血連関ネットワークの解析と新規治療戦略の開発	増山 理	内科 循環器内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
肝癌由来増殖因子の血管新生と肝癌増殖における役割の検討	榎本 平之	内科 肝・胆・膵科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ヒト白血球抗原半合致移植の成立機序の解析	小川 啓恭	内科 血液内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ハイリスク放射線治療患者での直腸粘膜障害の予防と治療一亜鉛製剤の設計と評価一	上紺屋 憲彦	放射線科	1,950,000	補委	日本学術振興会
肝癌脈管侵襲・進展に関与する分子の探索および制御法の開発	平野 公通	外科 肝・胆・膵外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
侵襲時におけるヒドロキシエチルデンプン製剤の血管内皮糖鎖構造の保護効果	多田羅 恒雄	麻酔科	1,560,000	補委	日本学術振興会
進行性腎細胞癌に対するLexatumumab併用テムシロリムス療法の開発	呉 秀賢	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
組織内微小環境因子を標的とした骨治癒促進効果	高岡 一樹	歯科口腔外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境における転移制御因子の同定と胃がん治療戦略の確立	菊池 正二郎	外科 上部消化管外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高血圧症における鉄の関与と新規予防戦略の開発	内藤 由朗	内科 循環器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
デイスベブシア症状発現における十二指腸上皮細胞間接着装置とIL-33に関する検討	大島 忠之	内科 消化器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ストレス負荷時の食道生理機能変化を指標とした非びらん性胃食道逆流症の病態解析	三輪 洋人	内科 消化器内科	2,730,000	補委	日本学術振興会
慢性肝疾患における肝細胞障害と肝内凝固亢進状態の関連性に関する検討	西口 修平	内科 肝・胆・膵科	2,470,000	補委	日本学術振興会
腎性貧血治療における鉄貯蔵状態と造血細胞分化・鉄利用の関係の検討	中西 健	内科 腎・透析科	2,860,000	補委	日本学術振興会
肝組織修復における類洞内皮細胞、星細胞の役割解明と骨髄、脾臓との臓器相関の解析	飯室 勇二	外科 肝・胆・膵外科	1,820,000	補委	日本学術振興会

小計 累計

網羅的遺伝子解析による大腸癌リンパ節外転移の診断法確立と新たな転移関連因子の検索	野田 雅史	外科 下部消化管外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫に対する分子標的薬剤治療の模索	長谷川 誠紀	呼吸器外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸/CD44/MEK経路遮断による悪性胸膜中皮腫治療の開発	黒田 鮎美	呼吸器外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
メンソール、カプサイシンが神経系を介して鼻炎、副鼻腔炎の病態に及ぼす影響	都築 建三	耳鼻咽喉科	2,470,000	補委	日本学術振興会
低出生体重児の腸管機能不全と消化管サーファクタントの関連性に関する研究	奥山 宏臣	外科 小児外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
端側型神経移植による顔面神経再生様式の解析	垣淵 正男	形成外科	3,380,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性創傷治癒障害における血清由来Nanoparticleの役割の解明	河合 建一郎	形成外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ラット出血性ショック蘇生後肺障害モデルにおける水素吸入療法の効果	中尾 篤典	救命救急センター	2,340,000	補委	日本学術振興会
日本人の重症病態とTLR/IL-1RファミリーのIL-18遺伝子多型と性差の関係	小谷 穰治	救命救急センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
歯痛と海馬の可塑性および帯状回・扁桃核との機能連携の解析	長谷川 誠実	歯科口腔外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
咀嚼する食品の味・香りがストレス反応に与える影響	長谷川 陽子	歯科口腔外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
難治性口腔癌に対するヘッジホッグシグナルを応用した治療戦略	野口 一馬	歯科口腔外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
乳児排尿測定装置の開発	兼松 明弘	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎症での尿細管・間質線維化における細胞内鉄代謝異常の関与	名波 正義	内科 腎・透析科	1,300,000	補委	日本学術振興会
人工抗体を用いた滑膜増殖の制御	関口 昌弘	内科 リウマチ・膠原病科	1,170,000	補委	日本学術振興会
関節リウマチの骨破壊に対するS1P/S1P1シグナルの役割	北野 将康	内科 リウマチ・膠原病科	2,080,000	補委	日本学術振興会
DSM-5のチック関連性強迫性障害の妥当性、信頼性、臨床的有用性に関する検討	林田 和久	精神科神経科	1,300,000	補委	日本学術振興会
モルヒネ慢性投与下におけるベンゾアゼピン感受性増強の関連性の解明	恒遠 剛示	ペインクリニック部	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒトの舌知覚閾値測定	任 智美	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	日本学術振興会
レーザー光による骨切り後の骨癒合の研究	曾束 洋平	形成外科	2,080,000	補委	日本学術振興会

小計 累計

酸化ストレスが創傷治癒、肥厚性瘢痕形成に与える影響について	藤田 和敏	形成外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
エンドトキシン血症肺毛細血管モデルにおけるヒスタミン受容体発現と血管透過性の関係	尾迫 貴章	救命救急センター	2,080,000	補委	日本学術振興会
口腔がん幹細胞モデル細胞株の樹立とがん幹細胞を標的とした治療法の開発	頭司 雄介	歯科口腔外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
副刺激を調節した $\gamma$ $\delta$ T細胞を用いた新たな養子免疫療法の可能性の検討	鈴木 透	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会
集中治療室(ICU,NICU)における薬剤性有害事象に関する臨床疫学研究	太田 好紀	内科 総合診療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ラット逆流性食道炎モデルにおけるプロスタグランジンと自発運動への関与	近藤 隆	内科 消化器内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
リンパ球Sema4D分子標的による神経再生療法の検討	田片 将士	眼科	1,690,000	補委	日本学術振興会
皮膚におけるインターロイキン36の活性化に関する研究	山本 雅章	皮膚科	1,170,000	補委	日本学術振興会
新規放射線防護材としてのスタチンの可能性と肥満が及ぼす影響	土井 啓至	放射線科	780,000	補委	日本学術振興会
切除可能悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療法の確立に関する研究	中野 孝司	内科 呼吸器・RCU科	12,200,000	補委	厚生労働省
低出生体重児の消化管機能障害に関する周産期背景因子の疫学調査研究	奥山 宏臣	外科 小児外科	5,850,000	補委	厚生労働省
HLA不適合血縁者間移植の安全性および有効性向上のための包括的研究	小川 啓恭	内科 血液内科	700,000	補委	厚生労働省
慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究	飯島 尋子	超音波センター	1,500,000	補委	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	中村 志郎	内科 消化器内科	1,000,000	補委	厚生労働省
新たな造血幹細胞移植法の開発:生着工率の向上を目指して	小川 啓恭	内科 血液内科	800,000	補委	厚生労働省
卵膜由来間葉系幹細胞を用いた難治性疾患に対する新規移植再生療法の開発	相馬 俊裕	内科 血液内科	1,500,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	佐野 統	内科 リウマチ・膠原病科	2,000,000	補委	厚生労働省
視覚系の希少難治性疾患群に関する症例データベース構築	三村 治	眼科	2,000,000	補委	厚生労働省
胎児・新生児肺低形成の診断・治療実態に関する調査研究	奥山 宏臣	外科 小児外科	400,000	補委	厚生労働省
重症骨系統疾患の予後改善に向けての集学的研究	澤井 英明	産科婦人科	3,500,000	補委	厚生労働省

小計 累計

中性脂肪蓄積心筋血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	羽尾 裕之	病院病理部	250,000	補委	厚生労働省
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	長澤 康行	内科 腎・透析科	250,000	補委	厚生労働省
VCP阻害剤を用いた眼難治疾患に対する新規治療法開発	三村 治	眼科	2,000,000	補委	厚生労働省
歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証等に関する研究	岸本 裕充	歯科口腔外科	200,000	補委	厚生労働省
B型肝炎の核酸アナログ薬治療におけるdrug freeを目指したインターフェロン治療の有用性に関する研究	西口 修平	内科 肝・胆・膵科	3,000,000	補委	厚生労働省
B型肝炎ウイルスe抗体陽性無症候性キャリアの長期予後に関する検討	西口 修平	内科 肝・胆・膵科	1,000,000	補委	厚生労働省
腹膜播種を伴う胃癌に対するパクリタキセル腹腔内投与併用療法の有用性を評価する第Ⅲ相臨床試験	三輪 洋人	内科 消化器内科	800,000	補委	厚生労働省
造血細胞移植における肝中心静脈閉塞症(VOD)に対する本邦未承認薬defibrotideの国内導入のための研究:第Ⅰ相および第Ⅱ相試験(医師主導治験)	小川 啓恭	内科 血液内科	2,000,000	補委	厚生労働省
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復 —多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	吉矢 晋一	整形外科	4,000,000	補委	厚生労働省
難治性造血器腫瘍に対する造血幹細胞移植の治療成績向上を目指した未承認・適応外薬のエビデンス確立に関する研究	池亀 和博	内科 血液内科	300,000	補委	厚生労働省
消化管悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	笹子 三津留	外科 上部消化管外科	7,800,000	補委	厚生労働省
糖尿病患者における心血管疾患予防の最適化に関する研究	森本 剛	内科 総合診療科	1,000,000	補委	厚生労働省
本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究	増山 理	内科 循環器内科	500,000	補委	厚生労働省
がん微小環境を標的とする消化器がん治療法の開発	笹子 三津留	外科 上部消化管外科	21,000,000	補委	文部科学省
中皮細胞の統合的研究拠点形成	中野 孝司	内科 呼吸器・RCU科	20,000,000	補委	文部科学省
HLA半合致移植と骨髄内骨髄移植を柱とする包括的細胞療法確立を目指した研究	小川 啓恭	内科 血液内科	5,500,000	補委	文部科学省
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発(悪性中皮腫のプロファイリングによる新規分子標的の同定)	中野 孝司	内科 呼吸器・RCU科	10,500,000	補委	独立行政法人科学技術振興機構

小計 累計

高血圧の病態形成における鉄の関与と新規予防戦略の確立	内藤 由朗	内科 循環器内科	1,000,000	補委	ひょうご科学技術協会
IgA腎症患者の扁桃の特異的な歯周病菌への免疫応答の検討	長澤 康行	内科 腎・透析科	350,000	補委	兵庫県健康財団
危険因子と発症様式から見た日本人糖尿病患者における脳血管障害の臨床疫学	森本 剛	内科 総合診療科	2,500,000	補委	循環器病研究振興財団
頭頸部がん術後の永久失声患者に対する携帯型タブレット端末を用いた代用音声作成アプリケーションの開発	野口 一馬	歯科口腔外科	3,500,000	補委	三菱財団
がん医療水準均てん化推進事業(研究成果等普及啓発事業・専門分野研究者研修会) 研修テーマ: 「早期中皮腫の診断法」 「胸膜切除/肺剥皮術の手術手技標準化」	中野 孝司	内科 呼吸器・RCU科	650,000	補委	日本対がん協会
臨床決断支援システムを用いた薬剤性有害事象対策の有効性	森本 剛	内科 総合診療科	3,000,000	補委	ファイザーヘルスリサーチ振興財団
蘇生後脳症患者における持続脳波モニタリングを用いたてんかん重積状態の早期診断	尾迫 貴章	救命救急センター	250,000	補委	兵庫県医師会
造血幹細胞移植患者の無菌室での身体活動パターンの解明と自主運動プログラムの開発	森下 慎一郎	リハビリテーション部	2,080,000	補委	日本学術振興会
高齢心臓血管外科術後患者への低負荷抵抗運動が筋力、日常生活動作スコアへ及ぼす影響	笹沼 直樹	リハビリテーション部	600,000	補委	日本学術振興会
嚥下障害患者に対する経皮的頸部電気刺激が嚥下機能に及ぼす影響	福岡 達之	リハビリテーション部	600,000	補委	日本学術振興会
人口呼吸管理患者における体位変換時の横隔膜活動の変化について	梅田 幸嗣	リハビリテーション部	600,000	補委	日本学術振興会
周術期の歯科介入が疾患の予後に与える影響～兵庫医科大学病院におけるコホート研究～	木崎 久美子	歯科口腔外科	600,000	補委	日本学術振興会
肺癌患者末梢血液中の循環腫瘍細胞(CTC)と上皮間葉移行(EMT)に関する研究	米田 和恵	呼吸器外科学	500,000	補委	日本学術振興会

小計

13

計 107

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kubo Shuji	臨床遺伝部	Highly efficient tumor transduction and antitumor efficacy in experimental human malignant mesothelioma using replicating gibbon ape leukemia virus.	Cancer gene therapy 2013;20(12):671-7
2	Uchino Motoi	外科 下部消化管外科	Risk factors for surgical site infection and association with infliximab administration during surgery for Crohn's disease.	Diseases of the colon and rectum 2013;56(10):1156-1165
3	Matsuoka Hiroki	外科 下部消化管外科	Clinicopathological features of ulcerative colitis-associated colorectal cancer pointing to efficiency of surveillance colonoscopy in a large retrospective Japanese cohort.	International journal of colorectal disease 2013;28(6):829-834
4	Ikeuchi Hiroki	IBDセンター	Prognosis following emergency surgery for ulcerative colitis in elderly patients.	Surgery today 2014;44(1):39-43
5	Uchino Motoi	外科 下部消化管外科	Topical tacrolimus therapy for antibiotic-refractory pouchitis.	Diseases of the colon and rectum 2013;56(10):1166-1173
6	Uchino Motoi	外科 下部消化管外科	Clinical features and treatment of ulcerative colitis-related severe gastroduodenitis and enteritis with massive bleeding after colectomy.	International journal of colorectal disease 2014;29(2):239-245
7	Oshima Tsutomu	外科 上部消化管外科	Preoperative oral antibiotics and intravenous antimicrobial prophylaxis reduce the incidence of surgical site infections in patients with ulcerative colitis undergoing IPAA.	Diseases of the colon and rectum 2013;56(10):1149-1155
8	Murase Keiko	外科 乳腺・内分泌外科	Biological characteristics of luminal subtypes in pre- and postmenopausal estrogen receptor-positive and HER2-negative breast cancers.	Breast cancer (Tokyo, Japan) 2014;21(1):52-57
9	Uchino Motoi	外科 下部消化管外科	Clinical features and management of pouchitis in Japanese ulcerative colitis patients.	Surgery today 2013;43(9):1049-1057

10	Nakamura Ikuo	外科 肝・胆・膵外科	Activation of the transcription factor GLI1 by WNT signaling underlies the role of SULFATASE 2 as a regulator of tissue regeneration	The Journal of biological chemistry 2013;288(29):21389-98
11	Kosaka Hisashi	外科 肝・胆・膵外科	Multivariate logistic regression analysis for prediction of clinically relevant pancreatic fistula in the early phase after pancreaticoduodenectomy	Journal of hepatobiliary-pancreatic sciences 2014;21(2):128-33
12	Tanaka Shogo	外科 肝・胆・膵外科	Management of postoperative intraabdominal abscess in laparoscopic versus open appendectomy	Osaka city medical journal 2013;59(1):1-7
13	Tanaka Shogo	外科 肝・胆・膵外科	Safety of hepatic resection for hepatocellular carcinoma in obese patients with cirrhosis	Surgery today 2013;43(11):1290-7
14	Iimuro Yuji	外科 肝・胆・膵外科	Regional hepatic regeneration after liver resection correlates well with preceding changes in the regional portal circulation in humans	Digestive diseases and sciences 2013;58(10):3001-9
15	Saka Ryuta	外科 小児外科	Safety and efficacy of laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure for inguinal hernias and hydroceles in children: a comparison with traditional open repair.	Journal of laparoendoscopic& advanced surgical techniques. Part A 2014;24(1):55-8
16	Miyoshi Yasuo	外科 乳腺・内分泌外科	[II.Late recurrence and resistance I.difference between De novo resistance and acquired resistance].	Gan to kagaku ryoho. Cancer&chemotherapy 2013;40(13):2505-9
17	Yanai Ayako	外科 乳腺・内分泌外科	Influence of body mass index on clinicopathological factors including estrogen receptor, progesterone receptor, and Ki67 expression levels in breast cancers.	International journal of clinical oncology 2013;online
18	Uchino Motoi	外科 下部消化管外科	Surgical site infection and validity of staged surgical procedure in emergent/urgent surgery for ulcerative colitis.	International surgery 2013;98(1):24-32
19	Ishikawa Hiroto	眼科	Stroke in the eye of the beholder	Medical hypotheses 2013;80(4):411-5
20	Ishikawa Hiroto	眼科	Vasculogenesis in experimental stroke after human cerebral endothelial cell transplantation	Stroke; a journal of cerebral circulation 2013;44(12):3473-81

21	Ishikawa Hiroto	眼科	Ischemic stroke brain sends indirect cell death signals to the heart	Stroke; a journal of cerebral circulation 2013;44(11):3175-82
22	Ishikawa Hiroto	眼科	A case with transient refractive change after removal of pituitary tumor	BMC ophthalmology 2013;13(1):65
23	Miyawaki Atsushi	救命救急センター	Linezolid-Induced Lactic Acidosis followed by Severe Hypophosphatemia after Discontinuation of Linezolid	Surgical infections 2013;14(2):229-230
24	Fujiwara Toshihiro	形成外科	Comparative study of antibacterial effects and bacterial retentivity of wound dressings.	Eplasty 2013;13:e5
25	Nishimoto Soh	形成外科	Infrared venography of the hand in Apert syndrome.	Indian journal of plastic surgery : official publication of the Association of Plastic Surgeons of India 2013;46(3):584-6
26	Fujiwara Toshihiro	形成外科	Influence of continuous or intermittent negative pressure on bacterial proliferation potency in vitro.	Journal of plastic surgery and hand surgery 2013;47(3):180-4
27	Nishimoto Soh	形成外科	Impacts of bone marrow aspirate and peripheral blood derived platelet-rich plasma on the wound healing in chronic ischaemic limb.	Journal of plastic surgery and hand surgery 2013;47(3):169-74
28	Fujiwara Toshihiro	形成外科	Direct contact of fibroblasts with neuronal processes promotes differentiation to myofibroblasts and induces contraction of collagen matrix in Vitro.	Wound Repair and Regeneration 2013;21(4):588-594
29	Takuwa Teruhisa	呼吸器外科	Low-fat diet management strategy for chylothorax after pulmonary resection and lymph node dissection for primary lung cancer.	The Journal of thoracic and cardiovascular surgery 2013;146(3):571-4
30	Tsubamoto Hiroshi	産科婦人科	Prognostic factors for locally advanced cervical cancer treated with neoadjuvant intravenous and transuterine arterial chemotherapy followed by radical hysterectomy	International journal of gynecological cancer : official journal of the International Gynecological Cancer Society 2013;23(8):1470-1475

31	Takaoka Kazuki	歯科口腔外科	Effect of nitric oxide synthase inhibitor and a CXC chemokine receptor-4 antagonist on tumor growth and metastasis in xenotransplanted mouse model of adenoid cystia carcinoma of the oral floor.	International Journal of Oncology 2013;43(3):737-45
32	Hasegawa Yoko	歯科口腔外科	Is there a First Night Effect on Sleep Bruxism? A Sleep Laboratory Study	Journal of Clinical Sleep Medicine 2013;9(11):1139-45
33	Fujiwara Masanori	歯科口腔外科	Comparison of joint pain in patients diagnosed with and without articular disk displacement without reduction based on the Research Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorder.	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontology 2013;116(1):9-15
34	Hasegawa Yoko	歯科口腔外科	Flavor-enhanced modulation of cerebral blood flow during gum chewing.	PLoS One 2013;8(10):e66313
35	Saka Naoki	耳鼻咽喉科	Is a pulling sensation in the anteroposterior direction associated with otolith dysfunction?	Acta otolaryngologica 2014;134(3):233-7
36	Kojima Yusuke	耳鼻咽喉科	Therapeutic evaluation of outpatient submucosal inferior turbinate surgery for patients with severe allergic rhinitis.	Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology 2013;62(4):479-85
37	Katsura Hirokazu	耳鼻咽喉科	Long-term deterioration of bone-conduction hearing level in patients with labyrinthine fistula.	Auris, nasus, larynx 2014;41(1):6-9
38	Mishiro Yasuo	耳鼻咽喉科	The recurrence rate of pars tensa retraction cholesteatoma and a new staging system.	International Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery 2014;3(1):1-3
39	Yukitatsu Yoriko	耳鼻咽喉科	Decreased expression of VE-cadherin and claudin-5 and increased phosphorylation of VE-cadherin in vascular endothelium in nasal polyps.	Cell and tissue research 2013;352(3):647-57
40	Ide Takeshi	ICU	Extracellular fluid accumulation predicts fluid responsiveness after hydroxyethyl starch 70/0.5 Bolus infusion during major abdominal surgery	Open Journal of Anesthesiology 2013;3(9):413-20

41	Inoue Shinichi	整形外科	Risk factors for intraoperative lateral mass fracture of lateral mass screw fixation in the subaxial cervical spine.	Journal of neurosurgery: Spine 2014;20(1):11-7
42	Nakayama Hiroshi	整形外科	The effect of tourniquet use on operative performance and early postoperative results of anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction.	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association 2013;18(4):586-91
43	Tachibana Toshiya	整形外科	Therapeutic impact of organism isolation in management of patients with pyogenic vertebral osteomyelitis.	SpringerPlus 2014;3:62
44	Inoue Shinichi	整形外科	Comparison of clinical features and outcomes of staphylococcus aureus vertebral osteomyelitis caused by methicillin-resistant and methicillin-sensitive strains.	SpringerPlus 2013;2:283
45	Abe Kazuo	内科 神経・脳卒中科	Cognitive impairment and PD patients' capacity to consent to research.	Neurology 2014;82(6):546
46	Ikeda Naoto	内科 肝・胆・膵科	Nationwide survey in Japan regarding splenectomy/partial splenic embolization for interferon treatment targeting hepatitis C virus-related chronic liver disease in patients with low platelet count.	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology 2013;[Epub ahead of print]
47	Tozawa Katsuyuki	内科 消化器内科	A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study of Rebamipide for Gastric Mucosal Injury Taking Aspirin With or Without Clopidogrel	Dig Dis Sci 2014;59:1885-1890
48	Azuma Naoto	内科 リウマチ・膠原病科	Correlation between salivary epidermal growth factor levels and refractory intraoral manifestations in patients with Sjögren's syndrome.	Modern rheumatology / the Japan Rheumatism Association 2013;[Epub ahead of print]
49	Azuma Naoto	内科 リウマチ・膠原病科	Relapsing polychondritis coexisting with immune thrombocytopenic purpura: an unusual association.	Rheumatology (Oxford, England) 2013;52(4):757-9
50	Iimuro Masaki	内科 消化器内科	Effects of dietary calcium on Helicobacter pylori-induced gastritis in Mongolian gerbils.	Anticancer research 2013;33(9):3667-74

51	Nobuyuki Hida	内視鏡センター	A Questionnaire-Based Survey on the Diagnosis and Management of Inflammatory Bowel Disease in East Asian Countries in 2012	Digestion 2013;89(1):88-103
52	Watari Jiro	内科 消化器内科	Association between obesity and Barrett's esophagus in a Japanese population: a hospital-based, cross-sectional study.	BMC gastroenterology 2013;13:143
53	Hori Kazutoshi	内科 消化器内科	Do endoscopic features suggesting eosinophilic esophagitis represent histological eosinophilia?	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society 2014;26(2):156-63
54	Yokoyama Yoko	内科 消化器内科	Looking for predictive factors of clinical response to adsorptive granulocyte and monocyte apheresis in patients with ulcerative colitis: markers of response to GMA.	BMC gastroenterology 2013;13:27
55	Takashima Tomoyuki	内科 肝・胆・膵科	Hepatitis C virus relapse was suppressed by long-term self-injection of low-dose interferon in patients with chronic hepatitis C after pegylated interferon plus ribavirin treatment.	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology 2013;44(6):597- 607
56	Tanaka Hironori	超音波センター	New malignant grading system for hepatocellular carcinoma using the Sonazoid contrast agent for ultrasonography.	Journal of gastroenterology 2013;[Epub ahead of print]
57	Nishiguchi Shuhei	内科 肝・胆・膵科	Safety and efficacy of faldaprevir with pegylated interferon alfa-2a and ribavirin in Japanese patients with chronic genotype-1 hepatitis C infection.	Liver international : official journal of the International Association for the Study of the Liver 2014;34(1):78-88
58	Enomoto Hirayuki	内科 肝・胆・膵科	Association of amino acid imbalance with the severity of liver fibrosis and esophageal varices	Annals of hepatology 2013;12(3):471-8
59	Aizawa Nobuhiro	内視鏡センター	Thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C.	Journal of gastroenterology 2013;[Epub ahead of print]
60	Kai Shunro	輸血部	Double-unit cord blood transplantation after myeloablative conditioning for patients with hematologic malignancies: a multicenter phase II study in Japan.	Biology of blood and marrow transplantation : journal of the American Society for Blood and Marrow Transplantation 2013;19(5):812-9

61	Nakano Takashi	内科 呼吸器・RCU科	[Environmental air pollutants and the risk of cancer].	Gan to kagaku ryoho. Cancer&chemotherapy 2013;40(11):1441-5
62	Tabata Chiharu	内科 呼吸器・RCU科	Serum HMGB1 as a diagnostic marker for malignant peritoneal mesothelioma.	Journal of clinical gastroenterology 2013;47(8):684-688
63	Tabata Chiharu	内科 呼吸器・RCU科	Serum HMGB1 as a prognostic marker for malignant pleural mesothelioma.	BMC cancer 2013;13:205
64	Mikami Koji	内科 呼吸器・RCU科	Clinical significance of serum angiotensin-1 in malignant peritoneal mesothelioma.	Cancer investigation 2013;31(8):511-5
65	Shibata Eisuke	内科 呼吸器・RCU科	Free fatty acids inhibit protein tyrosine phosphatase 1B and activate Akt.	Cellular physiology and biochemistry : international journal of experimental cellular physiology, biochemistry, and pharmacology 2013;32(4):871-879
66	Naito Yoshiro	内科 循環器内科	Hepcidin is increased in the hypertrophied heart of Dahl salt-sensitive rats.	International journal of cardiology 2014;172(1):e45-7
67	Naito Yoshiro	内科 循環器内科	Dietary iron restriction prevents further deterioration of renal damage in a chronic kidney disease rat model.	Journal of hypertension 2013;31(6):1203-13
68	Naito Yoshiro	内科 循環器内科	Increased renal iron accumulation in hypertensive nephropathy of salt-loaded hypertensive rats.	PloS one 2013;8(10):e75906
69	Miki Kojiro	内科 冠疾患科	Impact of post-procedural intravascular ultrasound findings on long-term results following self-expanding nitinol stenting in superficial femoral artery lesions.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 2013;77(6):1543-50
70	Naito Yoshiro	内科 循環器内科	Angiotensin II type 1a receptor signaling is implicated in erythropoietin production in response to iron deficiency in mice.	International journal of cardiology 2013;168(2):1607-8

71	Sawada Hisashi	内科 冠疾患科	Expression of interleukin-33 and ST2 in nonrheumatic aortic valve stenosis.	International journal of cardiology 2013;168(1):529-31
72	Masaki Mitsuru	臨床検査部	Long-term effects of irbesartan on plasma aldosterone concentration and left atrial volume in hypertensive patients	Journal of cardiology 2014;63(3):205-10
73	Naito Yoshiro	内科 循環器内科	Impact of dietary iron restriction on the development of monocrotaline-induced pulmonary vascular remodeling and right ventricular failure in rats.	Biochemical and biophysical research communications 2013;436(2):145-51
74	Kono Tomoaki	内科 消化器内科	Prospective postsurgical capsule endoscopy in patients with Crohn's disease	World Journal of Gastrointestinal Endoscopy 2014;6(3):88-98
75	Oshima Tadayuki	内科 消化器内科	Down-regulation of claudin-18 is associated with the proliferative and invasive potential of gastric cancer at the invasive front.	PloS one 2013;8(9):e74757
76	Tozawa Katsuyuki	内科 消化器内科	A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study of Rebamipide for Gastric Mucosal Injury Taking Aspirin With or Without Clopidogrel.	Digestive diseases and sciences 2014;1:1-6
77	Watari Jiro	内科 消化器内科	Clinical outcomes and risk factors for perforation in gastric endoscopic submucosal dissection: A prospective pilot study.	World journal of gastrointestinal endoscopy 2013;5(6):281-7
78	Yamamoto Asami	内科 神経・脳卒中科	[Steroid responsive anti-Hu-associated paraneoplastic encephalitis with bilateral frontal lobe lesions].	Rinshō shinkeigaku = Clinical neurology 2013;53(4):273-7
79	Matsui Kiyohiro	内科 総合診療科	Clinical correlates of anhedonia in patients with Parkinson's disease.	Clinical neurology and neurosurgery 2013;115(12):2524-2527
80	Morimoto Takeshi	内科 総合診療科	Managing microbe-associated health problems in primary care	General Medicine 2013;14(1):4-6
81	Tokuda Masaru	内科 糖尿病科	Effects of exenatide on metabolic parameters/control in obese Japanese patients with type 2 diabetes.	Endocrine journal 2014;61(4):365-72

82	Katsuno Tomoyuki	内科 糖尿病科	Add-on therapy with the DPP-4 inhibitor sitagliptin improves glycemic control in insulin-treated Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	Endocrine journal 2013;60(6):733-42
83	Kusunoki Yoshiki	内科 糖尿病科	Effect of additional administration of acarbose on blood glucose fluctuations and postprandial hyperglycemia in patients with type 2 diabetes mellitus under treatment with alogliptin.	Endocrine journal 2013;60(4):431-9
84	Moriwaki Yuji	内科 内分泌・代謝科	Effects on Uric Acid Metabolism of the Drugs except the Antihyperuricemics	Journal of Bioequivalence & Bioavailability 2014;6(1):10-17
85	Kusunoki Yoshiki	内科 糖尿病科	Effects of switching from insulin glargine or detemir to insulin degludec in patients with type 1 diabetes mellitus.	Diabetes therapy 2013;4(2):461-72
86	Yoshimura Shinichi	脳神経外科	Selection of carotid artery stenting or endarterectomy based on magnetic resonance plaque imaging reduced periprocedural adverse events.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 2013;22(7):1082-7
87	Togo Yoshikazu	泌尿器科	Antimicrobial prophylaxis to prevent perioperative infection in urological surgery: a multicenter study.	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy 2013;19(6):1093-101
88	Yamamoto Masaaki	皮膚科	Serum cytokines correlated with the disease severity of generalized pustular psoriasis.	Disease markers 2013;34(3):153-61
89	Imai Yasutomo	皮膚科	Skin-specific expression of IL-33 activates group 2 innate lymphoid cells and elicits atopic dermatitis-like inflammation in mice.	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 2013;110(34):13921-6
90	Imai Yasutomo	皮膚科	YKL-40 is a serum biomarker reflecting the severity of cutaneous lesions in psoriatic arthritis.	The Journal of dermatology 2013;40(4):294-6
91	Tsukamoto Yoshitane	病院病理部	A rare case of clear cell sarcoma with 4 types of EWSR1-ATF1 fusions detected not in primary site but in metastatic site.	Pathology, research and practice 2013;209(12):803-7

92	Hao Hiroyuki	病院病理部	Distribution of myofibroblast and tenascin-C in cystic adventitial disease: comparison with ganglion.	Pathology international 2013;63(12):591-8
93	Tsubamoto Hiroshi	産科婦人科	Phase II trial on neoadjuvant intravenous and trans-uterine arterial chemotherapy for locally advanced bulky cervical adenocarcinoma.	Gynecologic oncology 2013;129(1):129-34
94	Tomogane Yusuke	脳神経外科	Usefulness of PRESTO magnetic resonance imaging for the differentiation of schwannoma and meningioma in the cerebellopontine angle	Neurologia medico-chirurgica 2013;53(7):482-489
95	Doi Hiroshi	放射線科	Body mass index can affect gastrointestinal and genitourinary toxicity in patients with prostate cancer treated with external beam radiation therapy.	Oncology letters 2014;7(1):209-214
96	Tanooka Masao	放射線技術部	Three-dimensional radiochromic film dosimetry for volumetric modulated arc therapy using a spiral water phantom.	Journal of radiation research 2013;54(6):1153-9
97	Doi Hiroshi	放射線科	Neoadjuvant short-course hyperfractionated accelerated radiotherapy (SC-HART) combined with S-1 for locally advanced rectal cancer.	Journal of radiation research 2013;54(6):1118-1124
98	Nakanishi Takeshi	内科 腎・透析科	Current Topics in Therapeutic Plasmapheresis	Clinical and Experimental Nephrology 2014;18(1):41-49
99	Takebayashi Takashi	リハビリテーション部	A 6-month follow-up after constraint-induced movement therapy with and without transfer package for patients with hemiparesis after stroke: a pilot quasi-randomized controlled trial.	Clinical rehabilitation 2013;27(5):418-426
100	Fukuoka Tatsuyuki	リハビリテーション部	Effect of the effortful swallow and the Mendelsohn maneuver on tongue pressure production against the hard palate.	Dysphagia 2013;28(4):539-47
101	Morishita Shinichiro	リハビリテーション部	Gender differences in health-related quality of life, physical function and psychological status among patients in the early phase following allogeneic haematopoietic stem cell transplantation.	Psycho-oncology 2013;22(5):1159-66
102	Ueda Takashi	感染制御部	High-dose regimen to achieve novel target trough concentration in teicoplanin.	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy 2014;20(1):43-47

103	Takahashi Yoshiko	薬剤部	Preferable timing of therapeutic drug monitoring in patients with impaired renal function treated with once-daily administration of vancomycin.	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy 2013;19(4):709-16
104	Nagase Kazuko	内科 消化器内科	Questionnaire based assessment of patients' acceptability of leukocytapheresis for the treatment of inflammatory bowel disease.	Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy 2013;17(5):490-7
105	Morishita Shinichiro	リハビリテーション部	Relationship between corticosteroid dose and declines in physical function among allogeneic hematopoietic stem cell transplantation patients.	Supportive care in cancer : official journal of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer 2013;21(8):2161-9
106	Morishita Shinichiro	リハビリテーション部	Safety and feasibility of physical therapy in cytopenic patients during allogeneic haematopoietic stem cell transplantation.	European journal of cancer care 2013;22(3):289-99

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の申請手続、進行手続、委員長から学長への答申・承認の方法について記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 本学の役員及び教職員が産学官連携活動を行うにあたり、利益相反を適切に管理すること	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 9 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ※平成 26 年 6 月 26 日(木) 17:30~開催 講師: 佐野 統(倫理委員長、内科学 リウマチ・膠原病科 主任教授) 演題: 「医学研究に関する倫理とその問題点」(参加者 48 名)	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修を修了した卒後 3 年目以上の医師を対象に、学会の認定医・専門医を目指すための専門的な研修を行う。当該研修においては、専攻分野ごとに研修プログラムを策定し、研修目標・到達目標の設定や、年次ごとのカリキュラムの設定を通して、効果的な研修が実施できるよう配慮している。

なお、多数の症例を経験させるために、関連病院とも協働して研修を実施している。

また、専攻分野によっては、研修期間中に大学院へと進学し、研究を行うことも可能としているものもある。

2 研修の実績

研修医の人数	172.5人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
澤田 暁宏	内科 血液内科	助教	17 年	
松井 聖	内科 リウマチ・膠原病科	准教授	31 年	
宮川 潤一郎	内科 糖尿病科	教授	34 年	
齋藤 正紀	内科 肝・胆・膵科	講師	25 年	
森脇 優司	内科 内分泌・代謝科	教授	34 年	
田端 千春	内科 呼吸器・RCU科	准教授	21 年	
木村 卓	内科 神経・脳卒中科	講師	21 年	
木田 有利	内科 腎・透析科	助教	14 年	
藤井 健一	内科 循環器内科／冠疾患科	講師	16 年	
富田 寿彦	内科 上部消化管科／下部消化管科	講師	16 年	
川端 啓太	内科 総合診療科	准教授	27 年	
笹子 三津留	外科 上部消化管外科	診療部長	38 年	
富田 尚裕	外科 下部消化管外科	診療部長	33 年	
藤元 治朗	外科 肝・胆・膵外科	診療部長	34 年	
宮本 裕治	心臓血管外科	診療部長	35 年	
長谷川 誠紀	呼吸器外科	診療部長	30 年	
奥山 宏臣	外科 小児外科	診療部長	29 年	

三好 康雄	外科 乳腺・内分 泌外科	診療部長	29 年
宮脇 淳志	救命救急センタ ー	助教	22 年
多田羅 恒雄	麻酔科	教授	27 年
服部 益治	小児科	教授	35 年
清野 仁美	精神科神経科	助教	13 年
澤井 英明	産科婦人科	准教授	29 年
福西 成男	整形外科	講師	25 年
河合 建一郎	形成外科	講師	16 年
蒲 恵蔵	脳神経外科	講師	40 年
中川 登	皮膚科	助教	12 年
野島 道生	泌尿器科	教授	29 年
細谷 友雅	眼科	助教	12 年
寺田 友紀	耳鼻咽喉科	講師	17 年
上紺屋 憲彦	放射線科	教授	30 年
竹田 健太	I C U	助教	14 年
道免 和久	リハビリテーシ ョン部	部長	27 年
廣田 誠一	病院病理部	部長	29 年
神原 政仁	ペインクリニッ ク部	助教	16 年
岩田 恵典	内視鏡センター	講師	17 年
田中 弘教	超音波センター	講師	20 年
今泉 昌男	放射線医療セン ター 核医学・P E T診療部	講師	19 年
田村 邦宣	がんセンター	講師	21 年
樋田 信幸	I B Dセンター (内科)	講師	18 年
池内 浩基	I B Dセンター (外科)	センター長	26 年
中嶋 一彦	感染制御部	講師	17 年
藤盛 好啓	輸血部	准教授	33 年
正木 充	臨床検査部	講師	13 年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

（看護師） 専門看護師・認定看護師取得に係る研修をはじめとした急性期医療の現場における実践研修

（薬剤師） 病院薬剤師の基本的な技術を習得するとともに薬物療法に関する臨床及び基礎の幅広い知識と技術の習得を図り、より質の高い臨床薬剤師の育成を目的とした臨床研修

（理学療法士・作業療法士） 病院でのリハビリテーションの基本的な技術を習得するとともに臨床における幅広い知識と専門的な技術の習得を図り、より質の高い理学療法士及び作業療法士を育成することを目的とした臨床研修

・研修の期間・実施回数

（看護師） 11回、延べ182日

（薬剤師） 最大3年間（1年目を臨床薬剤師総合コースとし、2・3年目を臨床実務実践コースとしている）であり、その間の勤務体系については常勤職員に準ずる。

（理学療法士・作業療法士） 最大2年間（1年目を一般基礎コースとし、2年目を専門基礎コースとしている）であり、その間の勤務体系については常勤職員に準ずる。

・研修の参加人数

（看護師） 21名

（薬剤師） 3名

（理学療法士・作業療法士） 理学療法士3名、作業療法士1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の期間・実施回数</li> <li>・ 研修の参加人数</li> </ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容</li> <li>・ 研修の期間・実施回数</li> <li>・ 研修の参加人数</li> </ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 難波 光義	
管理担当者氏名	管理課長 元嶋 寛幸、 診療支援課長 柳谷 浩以、	医事課長 小寺 齊人 薬剤部長 木村 健

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		管理課 診療支援課 薬剤部 診療各科	保管部署及び電子カルテ上にて管理している。 なお、画像保存通信システム（PACS）は平成21年3月16日より、電子カルテシステムは平成25年2月25日より稼働している。 また、入院診療録・外来診療録については如何なる場合においても院外への持ち出しはできないが、画像診断記録及びその他の診療記録については所定の手続きを経ることにより持ち出しの許可を受けることができる。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
	高度の医療の研修の実績	管理課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十体一制第一の確項保各の号状及び第九	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。 一部指針等については院内向けホームページでも公開している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	

	条の二十第一項	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	管理課 医療安全管理部	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。一部指針等については院内向けホームページでも公開している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 管理課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室	
医療機器の安全使用のために必要となる情	医療安全管理部			

		報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
--	--	--------------------------------------	--	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 甲斐 義啓	
閲覧担当者氏名	管理課長 元嶋 寛幸、医事課長 小寺 斉人 診療支援課長 柳谷 浩以	
閲覧の求めに応じる場所	管理課会議室、医事課会議室	
閲覧の手続の概要		
諸記録の閲覧を請求できる者である、病院に患者を紹介しようとする医師及び歯科医師並びに国及び地方公共団体は当院病院事務部長に「兵庫医科大学病院諸記録閲覧申請書」に必要事項を記入の上申請を行うことで閲覧の許可を得ることができる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I. はじめに ー安全と信頼の医療の提供ー</p> <p>II. 医療安全管理体制確保のための委員会の組織規約</p> <p>III. 当院における医療安全管理体制図</p> <p>IV. 当院における異状死（異状死体）届出に関する基準</p> <p>V. 医療事故を起こした職員・当該部署職員への心理的支援について</p> <p>VI. 大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 2 7 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理委員会 1 2 回</p> <p>② セイフティマネージャー連絡会 6 回</p> <p>③ 医療事故緊急対応部会 0 回</p> <p>④ 医療事故等検討部会 0 回</p> <p>⑤ 病院長・医療安全管理委員会コアメンバー会議 9 回</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成 2 5 年 5 月 8 日（水） テーマ：「医療機器安全使用の考え方」 ー人工呼吸器・除細動器・保育器を中心にー</p> <p>平成 2 5 年 7 月 3 0 日（火） テーマ：「患者安全のためのコーチングコミュニケーション」</p> <p>平成 2 5 年 1 0 月 1 日（火） テーマ：「B型肝炎ウイルスの再活性化とその対策」</p> <p>平成 2 5 年 1 2 月 1 8 日（水） テーマ：「事例に学ぶカルテ記録の重要性」「患者さんへの対応と法的問題」</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 発生したインシデント・アクシデントに対して、専任医師・統括・専従セイフティマネージャーが発生部門セイフティマネージャーとともに、内容分析、改善策の検討並びに患者への対応の指示を行っている。また、医療安全管理委員会委員及びセイフティマネージャーから構成される「オンラインインシデント検討会」を毎週開催し、各部門に改善策の助言・提案を行うことにしている。なお、必要に応じて「医療事故等検討部会」を開催し、医療事故等の原因を分析し、改善策の検討を行っている。</p> <p>② 報告のあった医療事故に対し、医療安全管理委員会等で原因を分析し、対応・改</p>	

<p>善策の検討を行っている。また、事故発生1ヶ月後・3ヶ月後（必要時6ヶ月後）に統括・専従セイフティマネージャーと当該部署のセイフティマネージャーで、改善策の実施状況を検証し、医療安全管理委員会に報告している。</p> <p>③ 発生したインシデント・アクシデント内容からテーマを設定し、看護部事故防止委員会・各部署のセイフティマネージャーと協働して、院内監査ラウンドなどを実施している。</p> <p>④ 医療安全強化月間のテーマを決め、各部署の安全への取り組みを支援している。</p> <p>⑤ 医療安全ニュースを月2回発行し、当院のインシデント・アクシデント情報・再発防止策・事故後の検証結果、他施設の事件事例、医療安全情報（厚生労働省・学会・PMDA等）などを掲載し、職員に周知している。</p> <p>⑥ 職種別研修で当院で発生したインシデント・アクシデントを教材にし、事故分析やKYT訓練を行っている。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(3名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（3）名 兼任（14）名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>①安全管理体制の構築、委員会の運営、指針、マニュアルの改訂など</li> <li>②医療事故を防止するための情報収集、分析、改善策の立案、フィードバック、評価</li> <li>③改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言</li> <li>④安全管理対策の実施状況の調査、分析</li> <li>⑤セイフティマネージャーの活動支援</li> <li>⑥医療安全に関する職員への教育・研修の実施</li> <li>⑦医療事故への対応：届出・公表を含む事故発生後の対応、事故の要因分析</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 感染管理に関する基本的な考え方</li><li>② 感染管理体制</li><li>③ 職員の教育・研修</li><li>④ 感染症の発生時の報告</li><li>⑤ 感染症の発生状況の報告</li><li>⑥ 感染症の発生時の対応</li><li>⑦ 病院感染対策のための指針の閲覧</li><li>⑧ 病院感染対策のための指針の見直し・改正</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院感染対策に関する事項を調査・審議し、院内感染症発生時の原因の分析、改善策の立案、実践、周知等感染管理を推進している。なお、必要があるときには臨時で開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>病院感染制御に対する基本的な考え方及び具体的施策の周知、業務を遂行するうえでの知識・技能の向上及び病院感染制御に対する意識の高揚を目的として、教育・研修を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●病院感染制御をテーマとする講演会を開催（全職員対象）・・・年4回 平成25年5月8日（水） テーマ：「飛沫感染と空気感染の予防策」</li><li>平成25年9月30日（月）、10月3日（木）～15日（火）（水、土、日除く） テーマ：「クリーンハンドキャンペーン第4弾」</li><li>平成25年10月1日（火） テーマ：「手術部位感染（SSI）対策」</li><li>平成26年1月17日（金） テーマ：「感染制御の基本と最近の動向」</li></ul> <p>（●職種別研修等 看護師ラダーレベル別研修、リンクナースを対象とした感染制御に関する研修を実施 清掃職員（委託業者）を対象とした病院感染制御の基本について研修を実施 院内感染の増加が疑わしい場合、または確認された場合は、施設全体または部署や職種を限定して院内感染対策に関する教育・指導を実施</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染症発生に係る報告、連絡があった事例は「感染症または病原体の検出種類によるレベル分類」に基づき感染制御部が対応し、必要により感染対策委員会で審議し対策を講ずる。また、アウトブレイクを疑う事例が発生した場合は、「アウトブレイク発生時の対応」に基づき対応する。アウトブレイクの可能性が高いと判断した場合、感染制御部による原因の究明ならびに拡大防止策を指示する。</p>	

感染制御部は感染対策委員会委員長に報告し、状況により臨時の委員会を開催し対策について協議する。

患者個々の抗菌薬治療に関しては、主治医からのコンサルテーションにより感染制御部と協議する。無菌領域から分離された場合は、感染制御部の抗菌療法の介入対象となる。広域グラム陰性菌治療薬の使用割合をAUDで調査し、カルバペネム系25%弱、タゾバクタム/ピペラシリン25%強、その他の広域βラクタム薬35%、ニューキノロン系15%を目標として使用割合をコントロールし、抗菌薬の適正使用を推進している。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容： （臨床研修医オリエンテーション） ＜平成 25 年 4 月 2 日（火）＞ テーマ 「医薬品の適正使用・薬物の相互作用」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 室 親明</li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 （有・無）</li><li>・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 病院で用いる医薬品の採用・購入などに関する事項 採用医薬品の選定と見直し 採用医薬品の安全性・取り間違い防止に関する検討 採用医薬品情報の作成・提供 医薬品の発注 医薬品の入庫管理と伝票管理</li><li>2. 医薬品の管理に関する事項 医薬品棚の配置と医薬品の充填 規制医薬品（麻薬、覚せい剤原料、向精神薬（第 1 種、第 2 種）、毒薬） 病棟・各部門への医薬品の供給 病棟等の配置医薬品の管理 医薬品の品質管理 処置薬の管理 救急カートの医薬品管理 輸血用血液製剤の保管・管理 危険物等の管理</li><li>3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 患者情報の内容および収集・管理、活用について 入院時の使用医薬品の確認 医薬品の使用に関する指示出しと指示受け 処方せんの取り扱い 特に安全管理が必要な医薬品の処方 病棟における処方変更時の対応 処方せんの点検 調剤 院外処方せんの取り扱い</li><li>4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 投与 服薬指導 投与後の経過観察 医薬品使用による患者容態急変時の応援体制 副作用発現時の対応</li></ol></li></ul>	

5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項  
医薬品情報の収集・管理  
医薬品情報の提供  
薬剤部における副作用情報の収集と提供  
ヒヤリハット事例・インシデント事例の周知  
各部門、各職種からの問い合わせに対する体制整備  
患者への薬剤情報提供及び問い合わせに対する対応
6. 他施設との連携に関する事項  
他施設からの問い合わせ等に関する体制整備  
院外処方せんの発行に関する事項  
緊急連絡のための体制整備
7. 放射性医薬品の取り扱いに関する事項  
放射性医薬品管理責任者の配置
8. 院内製剤の調整及び使用に関する事項  
院内製剤の調整及び使用について  
院内製剤の承認について  
院内製剤を製造するまでの流れ

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- 医薬品に係る情報の収集の整備 (  有  無 )  
病棟担当薬剤師から副作用情報の収集  
ブレアボイド報告の収集  
医療安全全国共同行動への参加 (危険薬の誤投与防止)  
調剤システム更新に伴う処方箋・薬袋印字の改善への取り組み  
術前・検査前に休薬を要する薬剤一覧表の改訂
- その他の改善のための方策の主な内容：  
定期的な医薬品の整理 (平成25年度は86品目の削除)

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 1 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>以下の機器の取り扱い方法・安全対策について研修を行った</p> <p>人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・補助循環装置・保育器・輸液ポンプ・医療ガス・放射線機器 等</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>以下の装置に対しては定期点検を実施している</p> <p>人工呼吸器・血液透析装置・血液浄化装置・補助循環装置・保育器・麻酔器・体外式ペースメーカー・輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器・電気メス・ベッドサイドモニター</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・ MR I 金属吸着事故防止のためにMR I 持ち込み可能な医療機器に「MR 対応」シールを貼付した</p> <p>・ セントラルモニタのアラーム音設定を全台確認し、音量設定分布を示し、アラーム音量の見直しを促した。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>平成23年1月7日付けで、(財)日本医療機能評価機構の病院機能評価 (ver.6) の認定 (一般病院) を受けている。</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページや院内掲示を通じて、患者さん及び外部へと診療実績 (臨床的・インディケータ) をはじめとした情報を発信している。</p> <p>また、「学校法人兵庫医科大学広報」「兵庫医科大学病院NEWS」「医療情報誌「HEARTS (ハーツ)」」の3誌を定期的に発行しており、連携病院に対しては送付による案内も行っている。</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>安全管理体制の強化を図るとともに、医療の質向上を目指し、複数診療科の医師、看護師をはじめとしたメディカルスタッフ等多職種からなる医療チームを編成し、適切な患者ケアや総合的</p>	

な患者管理等を行う医療チーム及び医療従事者の質向上を目的とする合計8つの医療チームを組織している。

(患者ケア等を目的とする)

- ・感染対策チーム (ICT) ・褥瘡対策チーム・栄養サポートチーム (NST) ・緩和ケアチーム
- ・呼吸ケアチーム (RST) ・精神科リエゾンチーム

(医療従事者の質向上を目的とする)

- ・エコーガイド下CVC挿入推進チーム・救命処置 (BLS・ALS) 推進チーム